

## 樹の郷運営方針

「木造」という暖かみのある建物で、その木の暖かさなど、いろいろな暖かさを利用者にも、提供できる「樹の郷」を目指します。

愛情と優しさと思いをやりを基本とし、職員・家族、地域の三者が互いに絆を深めあって、入居者（村人さん）を大きく包み込み、大木へと成長を遂げられる施設を目指します

樹の郷はひとつの村になっています。

一つ一つのユニット（棟）ごとに の村という名称がついています。つまりここは、村が集まっている状態なのです。そこで、樹の郷へ入所される利用者さんのことを「村人さん」と呼びます。また事務所については役場という名称にしました。一般的に施設に入られる場合入居、入所といいますが、樹の郷では引っ越しとよびます。

## 樹の郷の理念

き ねんりん き ぬく きずな とも  
樹の年輪、樹の温もり、絆 と共に、

年輪とは木の断面に生じる同心円状の模様で、成長輪ともいいます。成長輪のうち 1 年に一つずつ増加するものを年輪という。輪状に見えるのは、春期には幹の肥大成長が盛んで、夏期にはゆっくりになるためであり、色の濃い部分は細胞壁が密に、色の薄い部分は細胞壁が薄くなっている。熱帯の樹木にはないことがあるが、乾季と雨季があれば乾季には成長が休止するために成長輪が形成される。

年輪を数えることで、その木の樹齢を知ることができます。

その樹の年輪の意味ですが、「年輪を重ねる」という事でありその類義語は・年期が入る・長

年の経験（がものを言う）・ 経験豊かな ・ 熟達した ・ 古つわの ・ 上手な ・ うま

い ・ 達者な ・ 巧みな ・ 老巧な ・ 老練な ・ いぶし銀の（芸） ・ （まさに）職人わざ ・ 「（亀の甲より）年の功」 ・ 本格派の ・ すぐれた（手わざ） ・ 芸達者（ぞろい） ・

古豪（チーム） ・ ベテランの ・ 筋金入りの ・ 昔取った杵柄（きねづか）で、といった

色々な意味（類義語）があります。

結局年輪とはなにか、村人を取り巻く私たち、すなわち職員、家族、地域が一丸となって利用者村人さんを支えて行くという意味になります。また年輪は成長のあかしです。職員や地域が常に成長しているという意味でもあります。互いに絆を深め、大木へと成長をとげるという意味になっています。

次に

温もりとはどういうことか？いろいろな温もりがあるとおもいますが、利用者さんへの思い

や、温度や、気持ち、雰囲気や色、人や、場所、温かい、天気や、季節などなど、色々なぬくもりがあります。そのすべてにおいて、ご利用される方、村人さんに対して、どのような暖かさをもちて介護ができるかどうかということです。

次に絆と共にですが、これは、絆という言葉そのままですが、人と人のつながりを表しています。村人さんを職員や家族、地域が人と人のつながりを持って一緒に支えて行くというイメージです。

短く説明しますと、

「利用者村人さんを取り巻く私たちが一丸となって、

利用者村人さんの思いに寄り添い

利用者村人さんを支えていきましょう」

という事です。

## ロゴマークの意味



樹の郷は木造の施設であることから、木のイメージにつながる木の年輪をデザインしています。また落ち着いた和のイメージを直感的に連想できるロゴです。そしてシンプルな中にもメッセージ性が深く、一般からも印象的で認知しやすいロゴになっています。まさに樹の郷の理念がそのままロゴマークになっています。

理念の説明をしましたが

理念という言葉の意味は、「ある物事についての、こうあるべきだという根本の考え」であります。

よく研修先で講師から自分の施設の理念は何ですかという事をよく聞かれます。したがって

この樹の郷の理念「<sup>き</sup>樹の<sup>ねんりん</sup>年輪、<sup>き</sup>樹の<sup>ぬく</sup>温もり、<sup>きずな</sup>絆<sup>とも</sup>と共に、」

は必ず覚えてください。

最後に行動指針ですが、行動指針とは何か？

どのように考え、どのように行動するかの基本となる方針。

樹の郷行動指針

一、寄り添う心

一、家族や地域との結びつき

一、常に新しい気築きを求めて

私たちは、温もりのある、樹の郷を目指します。

以上が行動指針となります。この行動指針は毎朝の朝礼や会議の前にみんなで唱和することになっています。